

令和6年度 千葉県における「このしろ東京湾海域」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（1）千葉県におけるコノシロの漁業実態

千葉県におけるコノシロは、漁獲のほとんどが東京湾であり、漁法は主にまき網漁業となっている。海面漁業生産統計によると、直近3か年で、全国の漁獲量約3,600トンに対し、千葉県の漁獲量は約1,480トンであり、全国漁獲量の約4割を占め全国トップとなっている。

（2）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

①目標（千葉県資源管理方針に定める資源管理の方向性）

千葉県沿岸水産資源の資源評価において判断される中位以上の資源水準（漁獲量で1年当たり643トンを上回る資源水準）を維持する。

②該当する資源管理協定

「このしろ東京湾海域」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は、下表のとおりで、2漁協所属の約30名が、コノシロを対象とした、それぞれの協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、1協定となっている。

協定	備考	協定	備考
船橋市	◎	天羽	

◎ 本検証の対象協定

③自主的取組

まき網漁業では、休漁期間や休漁日を設ける取組を行っている。東京湾内湾の小型機船底びき網漁業では、関係漁業者により、内湾底びき網連絡協議会が組織されており、資源管理の取組は当該協議会で協議決定の上、実践している。

また、漁業者と千葉県水産総合研究センターとの共同調査による資源状況結果等に合わせ、同海域で操業する神奈川県漁業者とも連携し、資源管理の取組を実施している。（取組一覧は、下表のとおり）

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考（該当する協定）
まき網漁業	◎ 休漁期間の設定	中型まき網2月、小型まき網4月	船橋市
	◎ 休漁日の設定	週1回	船橋市
小型機船底びき網漁業	◎ 休漁日の設定	定期休漁（火・土曜日） ※ただし、各市場の臨時開場日前日は出漁することが出来る。	船橋市
	◎ 操業時間の制限、漁具の制限等	漁具の制限：桁幅の制限 操業時間：内湾底びき網連絡協議会で資源状況等に応じて協議決定	船橋市

◎ 協定に記載されている取組

上記取組の他、資源状況等に合わせて内湾底びき網連絡協議会で協議決定した、年末年始お盆期間の休漁や、まき網漁業では産卵期の漁獲抑制といった自主的な取組を実施している。

(3) 資源管理の効果の検証

本県におけるコノシロ漁獲量は、年変動が大きく、1978年に2,805トンを記録したが、その後増減を繰り返し、2015年に615トンとなった。その後、増加傾向となり、2022年の漁獲量は1,328トンであった。(図1) 県の令和6年(2024)度資源評価は、まき網の漁獲量を参考にしており、現在は高位増加傾向となっている(図2)。協定参加者による検証(以下、「自己点検」という。)では、漁獲量は増加、CPUE(単位努力量あたり漁獲量)は維持と判断しており、資源評価の結果と一致している。また、魚価(単価)も維持と判断している。

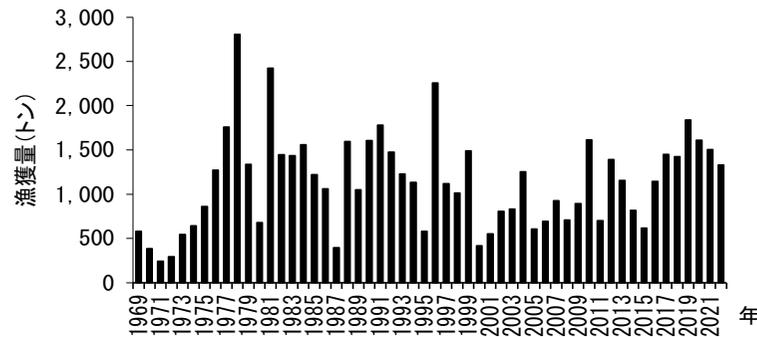


図1 コノシロ漁獲量の経年変化
(千葉県農林水産統計年報、海面漁業生産統計)

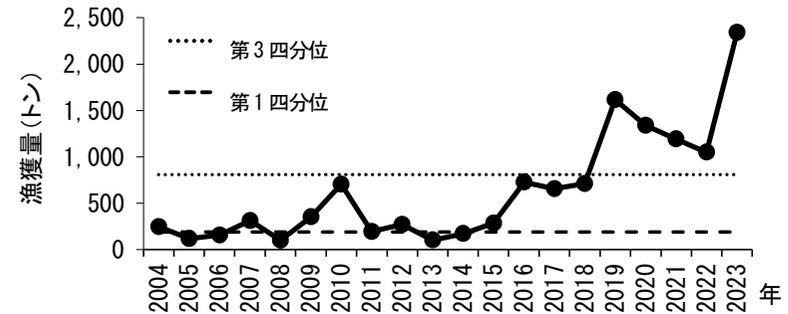


図2 東京湾主要漁協における中・小型まき網のコノシロ漁獲量の経年変化 (千葉県調べ)

(4) 効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

コノシロについては、近年漁獲量が高い水準で維持されており、自己点検でも取組の効果があると判断されていることから、漁業者がこれまで実施してきた資源管理の取組が資源維持の一助になっていると考えられる。

今後も良好な資源状態を維持するため、現在の取組を継続するとともに、海洋環境の変化や資源の動向に注視していくことが重要と考えられる。